

博士課程教育リーディングプログラム 平成25年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	東京大学	申請大学長名	濱田 純一
申請類型	複合領域型（物質）	プログラム責任者名	北森 武彦
整理番号	J01	プログラムコーディネーター名	川崎 雅司
プログラム名	統合物質科学リーダー養成プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

物質科学の持つ「総合性・俯瞰性・革新性」を新たな大学院教育の軸とし、博士前期後期課程の一貫コースを構築する。大学院教育における深い専門性を養成するコースワークと学位論文研究による博士学位取得に加え、本プログラムにおいて、物質科学関連における異分野の学術や、基礎から産業応用に渡る領域の俯瞰力を養成する。さらに、産官学のトップ人材による特別講義、コース生によるコロキウム、インターンシップ、長期海外派遣、自発融合研究などの施策を通して、異分野や異境とのコミュニケーション能力、先端的な課題にチャレンジしつつ基本原理に立ち戻れる柔軟性、問題を細部にわたって分析・解決する能力と組織を統率する広い視野を合わせ持ち、高い倫理性をもって世界を舞台に活躍するリーダー人材を育成することを目的としている。これらは、東京大学行動シナリオ「真の教養を備えたタフな東大生」の育成を目指す大学の改革構想と合致する。

2. プログラムの進捗状況

本プログラムの2年度として、全期間に渡り円滑な運用を可能とするため、以下の施策を実施した。

①コース学生による自発融合研究を推進するため、公益性の高い研究用物品を購入して共通実験室に設置した。②事務補佐員と学術支援職員からなるプログラム事務室を運用し、さらに3名の特任教員を採用した。③本プログラムへ専任させるため月額20万円の奨励金を、一期生32名と二期生46名に支給し、三期生の修士1年生相当43名を選抜して支給した。④二期生のQEを実施し、46名中43名を合格とした。⑤俯瞰講義や特別講義を実施した。また、プログラム専用に整備した講義室におけるコロキウムやキャンパス外で泊まり込みの自主キャンプを実施し、異分野交流による俯瞰力やコミュニケーション能力を養った。⑥三期生から選抜したコース生19名には、海外研修への参加を支援した。また、1, 2期生の8名に対して長期海外派遣事業を開始した。⑦現地視察担当委員の助言を参考にして、次年度(H26)のコースワークや俯瞰講義などプログラムなどの改善を実施した。⑧本プログラムのWebサイトを活用して理念や活動を広く周知するとともに、プログラム活動に関する情報交換の電子化を行った。⑨リーディングフォーラム2013に参加して情報交換を行い、コース生4名を派遣して学生目線による状況の把握も行った。